

JICA 中国事務所ニュース

2009年9月

目次

【トピックス】

- ◎ 12省の中国実施機関から130名以上が参加 1

【ニュース】

- 天津環境管理能力向上プロジェクトがスタートしました 2
- 食品安全セミナーを開催 3
- 日本の知見を四川地震被災地へ 4
- PATHWAYS TO HIGHER EDUCATION
～内陸部・人材育成事業実施大学での取組～ 4

- 【帰・赴任者紹介コーナー】 5

- 【寄稿コーナー】 6

最近のトピックス

12省の中国実施機関から130名以上が参加

～「中国円借款植林セミナー」開催～



ブドウ畑で熱心に交流する参加者の皆さん

JICAは、国家林業局、財政部、甘肅省財政庁と合同で、9月3日から4日の2日間、甘肅省嘉峪関市において円借款植林セミナーを実施しました。セミナーには、円借款植林プロジェクトの実施責任者だけでなく、日本大使館や植林NGOなど、合計130名以上の関係者が参加し、意見交換やプロジェクトの視察を行いました。



セミナーで成功や失敗の経験を交流

中国での円借款植林事業は2001年に開始され、現在12省で13のプロジェクトを実施しています。その融資承諾合計額は875億円に上り、計画が全て実施されれば、東京の8倍の面積に当たる188万ヘクタールの植林が行われ、2000万人の生活環境が改善される予定です（現在までに、貸付実行額ベースで約2/3が完了）。

今回のセミナーでは、これら12省の植林プロジェクト実施責任者が一同に集まり、他の植林事業での成功や失敗の経験を共有すると同時に、新JICAになってスタートした技術協力や研修事業などとの連携の経験をプロジェクト実施機関の方々に発表してもらうことで、今後の新しい協力について考えてもらう機会を作ることができました。

また、円借款で支援した嘉峪関市周辺の植林事業サイトの視察では、降雨量が1年間に120ミリ程度という厳しい気候の中で、点滴灌漑技術を活用した砂漠化防止植林の現場に加え、農家の所得向上につながり、地元特産品として大都市や海外へ販売しているワインの原料となるブドウ農場を見学しました。少ない水資源の有効活用や、農民の所得向上といった同様の課題を抱える実施機

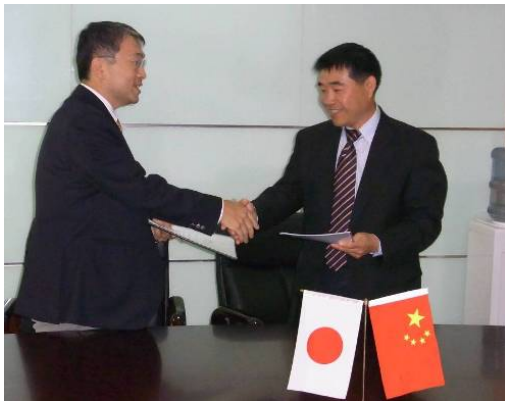
関の担当者は、自身のプロジェクトへの利用可能性について意見交換を行いました。

JICAからは、80年代より支援を続けている植林分野における技術協力の成果の発表や、新JICAになって可能となった協力の可能性の紹介を行うとともに、円借款を活用し、植林分野で優れた取り組みを行っている実施機関を表彰しました。セミナーの最後に実施したアンケートからは、本セミナーの頻繁な開催を望む声や、新しい協力についての相談などが多数寄せられました。今回のセミナーを活かし、円借款事業と技術協力の連携を通じた新たな協力を考えています。

(張陽)

ニュース

天津環境管理能力向上プロジェクトがスタートしました



天津市環境保護局 辛副局長(右)と合意文書を交換

2009年8月26日、天津市において天津市環境保護局とJICAの間で「天津環境管理能力向上プロジェクト」に関する合意文書の署名が行われ、正式に技術協力プロジェクトがスタートすることになりました。

天津市においては近年の急速な経済発展に伴い、行政のみの努力では十分に環境問題に対処することが困難になっています。本

件では、天津の行政官のみではなく、企業関係者、NGO関係者もターゲットとしており、各主体が連携することで効果的に環境問題に取り組むことが期待されています。

今回の案件では日本で60年代以降、行政、企業、市民が三位一体となり深刻な産業公害に取り組んできた北九州市の協力を受け実施することを予定しています。具体的には、北九州市の事例をもとに日本の各アクターが実際に連携して公害対策に取り組んできた経験やノウハウを研修生に指導することで、将来的に天津市において横断的、総合的に環境管理を担うことのできる人材を育てることを目的としています。

調査時においても、天津市では市民が環境問題に対し行政に苦情は言うものの、市民は十分に環境に意識した生活をおくっていないという矛盾についても問題提起がなされました。今後はこうした問題に対し、この案件

を通じ行政、企業、市民が協力、連携し共に
解決策を探っていくことで、今後天津で起こり
うる環境問題に対し、より効果的に対処でき

るようになることを期待しています。

(木下真人)

食品安全セミナーを開催



全国から100名の食品安全関係者が参加しました

現在、世界が注目する中国産食品の安全問題。日本政府は1990年代に北京・広州・武漢の食品検査センターへの無償資金協力を実施しており、新たに今年2月からは中国国家質量監督検査検疫総局(AQSIQ)をカウンターパートとし、食品安全管理体制強化プロジェクトを開始しました。

今年の8月10日から8月15日まで、中国の食品安全行政体制と検査能力の強化を目的に、日本の厚生労働省食品安全部から講師を招聘しセミナーを開催しました。セミナーには中国全国から食品安全に関わる技術者50名、行政官50名の計100名が合同で参加し、日本の食品規格基準や輸入食品の監

視体制、食中毒防止のための行政体系について理解を深めました。

中国では今年7月に新たな食品安全法が施行され、食品のリスク管理と評価が合理的に実施される体制となりました。これまでの食品安全行政は複数の省庁にまたがって独自に実施されていましたが、今後は「食品安全委員会」の設立により省庁を横断し一元的に管理されるようになります。本プロジェクトでは、このような中国の食品安全行政の強化のタイミングを適切にとらえ、日本はもちろんのこと、アジア各国、世界の人々の食品の安全体制が整備されることを目指していきます。(林伸江)

日本の知見を四川地震被災地へ ～西部地域行政官研修プロジェクト～



リラックス方法の体験

「PTSDという言葉を知っていますか？」という問いかけに、研修会場からはわずかなざわめきと「・・・？不知道(知りません)」の声。陝西省の宝鶏市で開かれた西部地域行政官研修でのひとコマです。

このプロジェクト初の中国国内研修となった陝西省コースは「被災後の地域復興と環境に調和した産業の育成」をテーマに、陝西省だけでなく、四川省、甘肅省の被災地からも行政官を招き行われました。四川大地震復興支援の1つであるこの研修には是非日本の地震被災後の経験を役立てたい、という思いをつぎこんだこのコース。中国側から強い要望のあった、被災時の行政官と被災住民に対する心のケアの他、中山間地震からの地域復興という講義を組み込み、現在実施中の心のケアプロジェクト堤専門家、中越



真剣に講義を聞く参加者

沖地震の被災地である新潟県長岡市に協力いただき実施しました。

100名もの参加者が、長岡市の復興戦略や山古志村の復興の過程を説明する画面を食い入るように見つめ、住民役と行政官役に扮した心のケアのペアワークに戸惑いながらも真剣に取り組む姿は非常に印象的でした。

新潟県からこられた専門家のお二人は、講義前後の陝西省や宝鶏市の皆さんのあたたかいもてなしにも大感激。中国の皆さんの熱心さと暖かい気持ちに、再会を約束し帰国しました。

今回のコースは被災地の今後の地域復興はもちろん、日中の相互理解にも大きく役立つものとなりました。プロジェクトは今年中国国内研修を6コース行う予定です。この先のコースもどうぞ期待！（倉科和子）

Pathways to Higher Education ～内陸部・人材育成事業実施大学での取組～

「内陸部・人材育成事業」は、大学の校舎建設と実験器具やパソコンなどの設備調達、そして大学職員の訪日研修実施を支援円借款事業で、現在22省と自治区で実施されています。中国の大学進学率は年々増加しており、1999年度、108万人だった大学入学者数が2009年度には629万人に増加すること予測されています。先日参加した、貴州省、

青海省、寧夏回族自治区の出張では、急激な学生数の増加により教室や実験器具が不足する状況の中、円借款を利用して整備された授業棟や実験器具などが積極的に利用されていることを感じました。

学生数が増大していく中で、農村部から進学した経済的に困難な状況にある学生もまた増えています。中国政府は貧困学生に対

する支援に力を入れており、奨学金の提供や学費の融資などを行っています。そんな状況の中、円借款対象大学でフォード財団がユニークな支援を行っています。それは”Pathways to Higher Education”という、学生の能力開発を行う活動です。教師のサポートの元、学生の自主的な活動を促すべく学校側に働きかけ、そこで生まれた学生主体の活動にフォード財団の支援金が使われています。

活動のひとつの学生への起業指導では、起業に必要な知識に関するトレーニングをしたり、実際に起業する際には資金を融資したりしています。また、起業の企画書のコンテストも開催しています。

各大学で実施されている活動は学生のアイデアから生まれ、そして学生が企画、運営、実施に積極的に参加しています。そのため学生は専門的な知識だけでなく、コミュニケーション能力や自信を身に付けることができます。実際に私たちが会った学生たちは堂々と自分の活動の内容や経験を語ってくれました。貧困学生支援として中国国内で展

開されている活動では、貧困学生に奨学金を供与するというものが多くあります、その場合学生は”奨学金が承認されるのをただ待っている”という受身の姿勢になってしまう場合があります。それに対して、この活動では、対象校の教師の指導のもと、学生によって取り組まれる活動を通じて、貧困学生の能力開発が模索されており、今後の貧困学生支援を考える上で、参考になるものと考えました。中国国内で頻りに報道されている貧困学生問題に対して、JICAとして何ができるか、考えていきたいと思っています。



円借款で提供されたコンピューターが活用されています

(新人 OJT 林如子)

帰・赴任者紹介コーナー

(1) 長期専門家 竜澤宏昌

～ダム運用管理能力向上プロジェクト チーフアドバイザー/ダム計画・管理～

9月7日からスタートした「ダム運用管理能力向上プロジェクト」に、ダム計画・管理の専門家



として参加することになりました。これまでに海外での業務経験は全くありませんが、ベテランの飯島さん、別途派遣される短期専門家の皆さんとともに、チームワーク良く、プロジェクトの進捗を図っていきたくと思っています。

今回は新規のプロジェクトではありますが、C/P 機関である水利部人材資源開発センターとは、2000年から2007年まで続いた「水利人材養成プロジェクト」を通じて、すでに強い信頼関係ができ上がっています。先輩方が築

き上げてきた成果を損ねることなく、さらに発展させていくことが自らの責務と考えています。関係の皆さまとも、日頃からの情報共有と連携を密にしながら、課題解決に向けて努力して参りた

いと考えています。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

(2) 長期専門家 飯島智志 ～ダム運用管理能力向上プロジェクト 業務調整/研修計画～

9月7日に北京入りし、「ダム運用管理能力向上プロジェクト」に2年間の任期で着任しました。カウンターパートはかつて7年間にわたり実施され、私自身も6年間携わっていた「水利人材養成プロジェクト」と同じ面々です。懐かしいメンバーとまた一緒に仕事ができるようになったのを非常に嬉しく感じています。また、2年ぶりとなる北京ですが、甘肅省の保健医療プロジェクトで「修行」を積んできた者の目から見ると、オリンピックを経たその発展ぶりに驚きを禁じ得ません。これからは北京での「都会生活」も楽しもうと思っています。



プロジェクトは、人口の増加だけでなく経済成長に伴う生活水準の向上や都市化の進展を通じて深刻度を増しつつある洪水被害の軽減や水不足への対処を目指しています。今後その技術的な基盤を担うダム管理人材を養成する様々な取り組みを実施していく事になります。これまでに参与してきたプロジェクトからの「学び」を生かしつつ頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

寄稿コーナー

JICAは、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる先生方を対象に、10日間ほど開発途上国での研修に参加いただく「教師海外研修」というプログラムを実施しています。開発途上国の現場で、それらの国々の置かれている現状や日本との関係、国際協力への理解を深め、その成果を次世代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としているこのコースが、今年中国でも行われました。参加者は福島県からこられた先生方6名です。今月号では、教師海外研修に参加された日本の先生が初めて見た中国、そして、青年海外協力隊員の教え子である中国の学生が初めて見た日本をお届けします。

日本の先生が初めて見た中国

8月3日～13日に教師海外研修が行われました。福島県から6名(小学校教諭3名、中学校教諭・特別支援学校教諭・同行ファシリテーター各1名ずつ)が参加しました。研修の主な内容は、JICAの様々なプロジェクトの状況視察や青年海外協力隊員のみなさんや中国の人々との交流、そして中国の文化を自らの五感を通して理解するということです。

訪ねた場所は、日本国際協力機構(JICA) 中華人民共和国事務所、北京高碑店污水处理場、北京紅丹丹教育文化交流センター、安全生産プロジェクト、湖北省植林プロジェクト、華中師範大学、湖北民族学院付属病院・板井青年海外協力隊員(看護)、湖北民族学院・矢部青年海外協力隊員(日本語教師)、福島県上海事務所、上海天地針織服装有限

公司工場です。

短期間に、たくさんの場所で研修を積みました。そこで感じたことは、まず、第一にJICAの活動の素晴らしさです。見学した先々の中国の方々から、「JICA・日本への感謝」の言葉や「中日の友好関係の発展」を望むという、未来志向の望ましい姿を数多く見ることができました。これらのことから、現在までの多くの様々なプロジェクトが中国の人々に理解され、感謝されているということが分かりました。

第二に、青年海外協力隊員の方々の方々の活動の素晴らしさです。板井、矢部両隊員他、花田、岡本、中、尾崎、内田隊員等の熱心な活動状況も知ることができました。限られた時間の中での交流で伝わってきたことは、隊員一人一人が与えられた環境の中で最善を尽くそうと努力しているということです。中国という日本とは全く違う環境の中で、中国や日本、中国人や日本人、そして自分と周りの人たちの中で、日本で暮らし生活している我々には想像もできない体験を日々しているのです。このように文章で表すと、とても深刻な感じに受け取られるかもしれませんが。しかし現実を



北京紅丹丹教育文化交流センターを訪問

しっかりと受け止め、目的に向かって毎日を真剣に過ごされていることが分かりました。青年海外協力隊員のみなさんは、日本の友好親善大使であり、みなさんの活動の中こそ、真の友好関係を築くものがあると感じました。

最後に、研修に先立ち、お世話していただいたJICA二本松のみなさん、そして長い研修期間の間、研修の成果を最大限に上げるべくお世話していただいた JICA 中国事務所のみなさんの懇切丁寧な対応に、心より感謝致します。今回の研修で出会ったみなさんから学んだ真摯な態度と、広大な中国で得たエネルギーな体験を生かし、今回の研修の成果を日本の子ども達の教育にぜひ生かしていきたいと考えています。「教育がよい国を作る、よい世界を作る、お互いに理解し合おうとする態度が何よりも大切！」をキーワードに、日々の実践に取り組んでいきたいと思います。

(福島県二本松市立下川崎小学校 教諭 佐久間 敏男)



湖北民族学院日本語科の学生達と

中国の高校生がはじめて見た日本



教え子の孟さんと



クラスでの発表会



駅での見送り

■ 教え子の夢

私が日本語教師として活動している内モンゴル赤峰学院附属中学には200人以上日本語を勉強している高校生がいます。今年この学校から、日本国際交流基金が主催する「日本語学習者訪日研修」に教え子の孟さん(高2)が参加することになりました。孟さんは努力家で積極性もあり、直前の試験も日本語クラスで1番でした。そして日本に行くという事は彼の夢でした。

■ 日本に行くということ

この研修は、実際に日本に行き、交流や見聞を広めることで、日本語や日本文化・社会への理解を深めるというものです。渡航費や食費は無料なのですが、渡航手続きや準備にかかる費用は参加者が負担しなくてはなりません。そして、これらは農村では簡単に出せる金額ではありませんが、ご両親は快く彼の日本行きに賛成してくれました。内陸部から日本に行くということはとても大変なことです。飛行機に乗るところか北京の駅から空港まで地下鉄に乗るのも初めてで、乗り方を確認したり、必要書類を揃えるために授業の空き時間に一緒に出かけたりしました。

■ 猛勉強の日々

参加が決まってから、彼は朝7時から夕方6時までの授業が終わってからも毎日勉強しました。私も毎日彼と日本語で会話をしました。あまり猛勉強に、私は出発前に彼が疲れ

てしまわないか心配だったのですが、彼はいつも楽しそうに準備していました。私が心配すると「両親は私を信じてくれています。先生は私を信じてくれませんか？」と逆に安心させられました。

■ はじめての日本

出発から約2週間後の7月15日、研修を終えた孟さんが、帰ってきたその足で私の家に報告に来てくれました。興奮気味に日本がとてもきれいだったこと、他の国からの研修生のこと、空手や太鼓などの日本文化を体験したことなどを話してくれました。

授業中には、写真やパンフレットを使いながら、日本での経験を日本語で発表しました。

最後に彼から「この研修を通じて私はすぐに友達ができました。視野が広がりました。」「私たちはいろいろな国から来ました。私たちは日本語を通して友達になりました。だから日本語に感謝しました。」という言葉聞いた時、私は活動で困難だったことも一気に吹き飛んで本当に嬉しくなりました。

発表後クラスメイトからは「広島原爆ドームの話聞いて、日本人は平和を重視していると思った」「日本は温泉がとて多と思った」「自分も日本へ行きたい」というような感想が出てきました。

■ 最後に

今回孟さんにとって、勉強した日本語を使う機会に恵まれ、実際に日本を体験し、日本



独立行政法人 国際協力機構
中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京發展大廈400室 郵便番号：100004
TEL：+86-10-6590-9250 FAX：+86-10-6590-9260

人や他の国の外国人と交流できたことは素晴らしい経験になったと思います。現在彼は特別進学クラスに移り、以前にも増して頑張っています。そして、孟さんの姿を見て他の生徒も日本語を一生懸命勉強するようになっ

たような気がします。私の任期は残り1カ月ですが、今後も交流を続けて生徒が目標に向かうお手伝いをしていきたいです。
(青年海外協力隊員 内蒙古自治区赤峰学院附属中学 日本語教師 二又結美)

=====
* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) へてにお願いいたします。
=====

* その他お知らせ

JICAのホームページ： チャイナ ライブラリー(和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チャイナ トピックス(和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>

